

平成29年度千葉県小児がん診療に関する医療機関実態調査結果

1 調査概要

① 調査目的

小児がん患者さんとその御家族及び小児がん経験者の方が可能な限り慣れ親しんだ地域で治療や支援、長期フォローアップが受けられる環境の整備を検討していくための基礎資料として、県内の医療体制の実態を把握する。

また、医療体制の実態を正確に把握するための定期的な情報の確認と更新として、調査を継続していく。

(※平成27年度に第1回調査を実施した。本調査は、2回目の調査となる。)

② 調査対象

前回調査医療機関 29施設

新規調査医療機関 1施設 (別紙回答医療機関一覧)

※下記のいずれかに該当する県内医療機関

○日本小児科学会専門医研修施設 ○日本小児血液がん学会研修施設

○千葉小児整形外科グループ施設 ○TCCSG 参加施設

○ちば医療なび/目的別検索/小児悪性腫瘍(小児がん)対応病院

③調査期間

平成29年4月～5月

④調査方法

・郵送によりアンケート調査票を送付、 郵送・FAX・メールにより回収

2 調査結果

【回収状況】 回収率 100%

※ただし、結果公表不可の3施設については以下の結果に含まない。

【小児がん診療体制について】

○調査対象とした疾患について1つでも、診療実績がある、もしくは対応可能と回答した医療機関は13施設(うち2施設は結果非公開)(43.3%)であった(別添1)。残る

医療機関については、「小児がん診療は行っていない」、「疑い患者は診察後、他院へ紹介対応を行っている」、「小児がんを強く疑う患者が受診された場合は診療情報提供書を作成し、他院へ紹介している」との回答であった。

○調査対象とした疾患以外で「その他」として挙げられた病名は、肝芽腫、悪性縦隔腫瘍、精巣悪性腫瘍、卵黄嚢腫等であった。

○主たる担当診療科としては、小児科、小児外科、血液腫瘍科等であった。

【療養環境及び患者・家族支援状況について】

○診療実績がある、もしくは対応可能と回答した医療機関のうち、手術、入院施設を持たない1施設、結果公表不可施設1施設を除いた11施設の療養環境、患者・家族支援の回答をまとめた（別添2）。

○家族等の宿泊施設が活用できる医療機関は2施設のみであった。

【地域との医療連携について】

○専門的な治療を終えた患者の予防接種や風邪・けがといった時の診療について、自施設で何らかの診療が可能と回答した医療機関は30施設であった（うち3施設が結果公表不可）。結果公表不可3施設を除いた27施設のうち、予防接種、風邪等の内科的症状が診療可能と回答したのは26施設、けが等外科的治療が可能との回答は21施設のうち1施設は軽傷のみなら診療可との回答であった。その他歯科治療等は12施設が診療可能と回答している（別添3）。

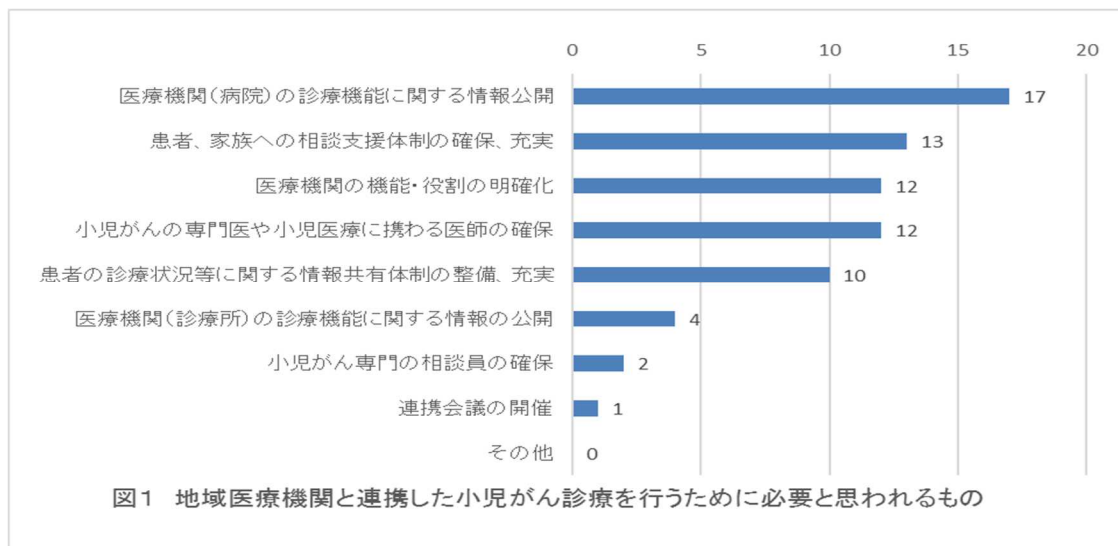
【千葉県の小児がん診療実績について】

追加調査 各医療機関小児がん診療実績（平成27年1月1日～平成27年12月31日）

追加調査 各医療機関小児がん診療実績（平成28年1月1日～平成28年12月31日）

【地域医療機関と連携した小児がん診療を行うために必要と思われるもの】

(最大3つまで回答可)



質問に回答があった医療機関は、27施設、最も多かったのは「医療機関(病院)の診療機能に関する情報公開」17、次いで「患者、家族への相談支援体制の確保、充実」13、「医療機関の機能・役割の明確化」「小児がんの専門医や小児医療に携わる医師の確保」12であった。